

北海道アズキのカラーグラフ

播種から収穫まで

1



ロータリによる整地、過度にならないようにし、できればトラクタや播種機が沈むので翌日に播種する。長沼町、'86. 05. 05

2



ロータリによる整地、即播種の場合は鎮圧をすることも大切。美唄市、'90. 05. 25

3



畑作地帯は過度の整地が多い傾向、できればロータリでなく、コンビネーションハローを！ 訓子府町、'82. 05. 20

4



鎮圧によるトラクタが沈まず、順調に播種作業ができる。美唄市、'90. 05. 25

5



播種に当たっては、種子消毒を忘れずに行う。播種機に充填したところ。美唄市、'90. 05. 25

6



真空播種機による播種、トラクタの走行速度は時速3~3.5kmで、播種位置や株間を確認する。清里町、'83. 05. 27

7



肥料の落下状況などをチェックするのに、播種機の後ろに乗り確認するのが望ましい。清里町、'82.05.25

8



播種機に乗り落下状況や前作物の残渣などが溝切りに引っかからないか等確認する。清里町、'82.05.25

9



転換畑小規模の作付では、テイラーによる播種作業も。当別町、'98.06.06

10



出芽後の低温で黄化したアズキ。中標津町、'84.06.22

11



低温で出芽遅延、その後も低温で初期生育が遅れたアズキ。訓子府町、'83.07.20

12



出芽後順調に生育しているアズキ。当別町、'84.06.13

13



出芽揃後、第1回目のカルチベータを入れているところ、アズキがまだ小さい。芽室町、'84.06.

14



順調な初期生育で中耕除草のあと、第1回目の手取り除草。当別町、'84.06.13

15



手取り除草風景、このように多勢での作業は珍しい。江別市、'99.06.29

16



後志・胆振の一部で行われているマルチ栽培。豊浦町、'85.07.17

17



転換畑地帯で農業機械銀行による管理作業が行われ、立派な生育のアズキ。深川市、'87.07.13

18



畑作地帯で順調な生育のアズキ。喜茂別町、'84.07.19

19



マルチ栽培のアズキは初期生育（根張りが良いため）がとくに良い。豊浦町。'86.08.08

20



順調な生育で開花盛期のアズキ。長沼町。'86.08.21

21



やや生育が遅延し、9月に入っても閉畦期とならないアズキ。更別村。'96.09.03

22



新品種となった「きたのおとめ」（左側、落葉病・萎凋病抵抗性）と「エリモショウス」（右側）。訓子府町。'96.08.02

23



転換畑で順調に生育する開花盛期のアズキ。浦臼町。'86.08.19

24



輪作体系がしっかり行われ、順調な生育のアズキ。津別町。'93.08.25

25



'83年頃より急に発生し始め、立枯れ（萎凋病：寿小豆）で欠株となった転換畑。新篠津村、'84. 07. 20

26



低温、長雨と排水不良により、生育不良のアズキ。豊頃町二宮、'96. 09. 02

27



低温、長雨等による生育不良（雑草も多い）のアズキ、好天の年は300kg/10aは穫れる。広尾町豊似、'96. 09. 03

28



マメアブラムシの寄生により葉や茎が変形したり、小さくなっているアズキ。池田町、'85. 08. 08

29



アズキの莢に寄生したマメアブラムシ、莢も粒も小さくなる。滝川市、'84. 08. 21

30



主茎の地際部を茎疫病に冒されたアズキ。常呂町、'94. 08. 08

31



さび病に冒され、黄褐色に変色したアズキ（手前緑色のものは防除区）。鶴川町。'87.08.27

32



さび病に冒されたアズキの葉、葉の裏に赤褐色の胞子がつき、落葉し易くなる。鶴川町。'84.08.10

33



褐斑細菌病の病斑がついたアズキの葉、種子伝染する。長沼町。'84.07.18

34



葉と莢に発生した炭疽病。清水町。'01.08.13

35



ダイズの根に寄生したダイズシストセンチュウのシスト（実物はケシ粒大の白いレモン形）。訓子府町（高倉原図）。'92.08.

36



アズキの根に瘤状（ゴール）のものができ、生育不良となるキタネコブセンチュウ。浦臼町。'86.08.20

37



6月下旬に殺虫剤を散布した後、黄化、枯死症状の葉が見られた→防除タンクに残っていた除草剤「ゲザプリム」の薬害。長沼町。'89. 06. 28

38



7月に入って好天が続いていたが、圃場の一部が葉脈間黄化、カップリングが見られた→垂鉛欠乏症。千歳市。'97. 07. 21

39



開花（落蕾することもある）するが、莢が着かない雄性不稔個体。訓子府町。'94. 09. 10

40



生育が遅延し、開花終期を迎えなければならない時期であるが、このように花がよく見えるのは生育が良くない年。千歳市。'87. 08. 19

41



生育が大幅に遅延し、強力な初霜に見舞われたアズキ。訓子府町。'83. 10. 08

42



霜害防止のため、ポリマルチで覆った十勝農試のアズキ試験圃場。芽室町。'83. 09. 20

43



順調に生育・登熟し、成熟期前のアズキ。俱知安町。'86. 09. 16

44



現在は小規模栽培のアズキにしか見られない“成熟期”の手刈り作業。比布町。'83. 09. 22

45



“完熟期”を迎えたアズキ、これより2週間以内にコンバイン収穫やピックアップ収穫する。美幌町。'94. 09. 14

46



現在は少なくなった“成熟期”に手刈りし、地干し後島立て作業のアズキ。深川市。'83. 09. 25

47



“完熟期”に1畦用のハーベスタで刈り取り中のアズキ。端野町。'82. 09. 21

48



“成熟期”に乗用2畦用のハーベスタで刈り取り中のアズキ。美幌町。'94. 09. 16

49



転換畑で整然と島立てされたアズキ。新篠津村。
'86. 10. 06

50



島立てされたアズキをにお積み作業中。黒松内町。
'86. 10. 02

51



にお積みされたアズキ。ニセコ町。'87. 09. 24

52



ビーンハーベスタで刈り倒されたアズキを、ピックアップコンバインで収穫中。芽室町（竹中原図）。'01. 10.

53



ロークroppタイプのコンバインによる収穫作業。芽室町（竹中原図）。'02. 10. 11

54



ビーンハーベスタで刈り倒されたアズキを、ピックアップスレッシャーで収穫中。更別村（竹中原図）。'01. 09.

55



十勝農試100年記念事業で建立された「エリモショウズの碑」、建立の趣旨と育成担当者が刻まれている。芽室町、'95.08.26

56



「エリモショウズ」を含む小豆育種グループで日本育種学会賞を受賞し、受賞講演会が行われた。札幌市、'99.04.23

57



小豆育種グループの面々と当時の楠 隆元場長（前列左より二人目）。札幌市、'99.04.23

58



全国豆類経営会改善共励会の北海道現地審査状況。八雲町、'89.09.29

59

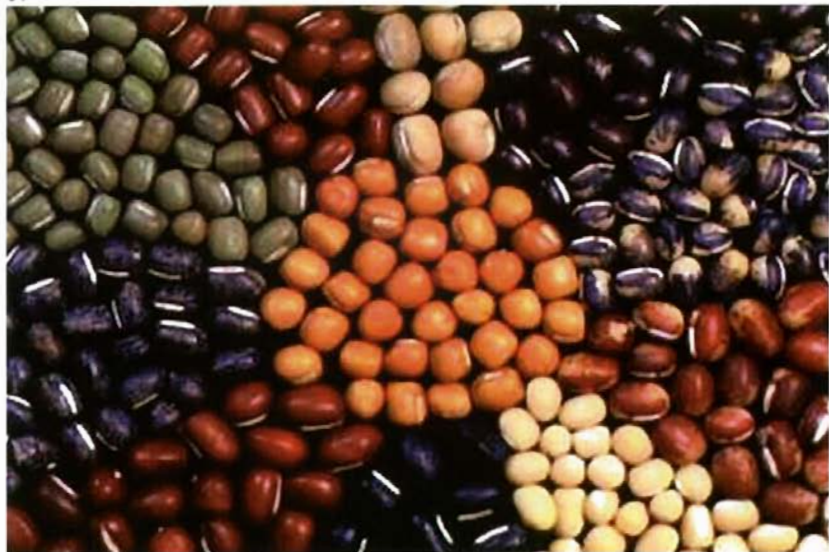


日本豆類基金協会の「豆作り講習会」の様子、日本和菓子協会専務の熱井がアズキの品質向上に貢献。倶知安町、'91.02.28

60



日本豆類基金協会の「豆作り講習会」、全道各地で1年5～6カ所で開催。今金町、'96.01.17



アズキの様々な種皮色。左上から時計回りに緑、赤、灰白、赤斑、黒姉子、赤姉子、白、黒、赤、灰白斑、中央は黄。



アズキの粒大の変異。下段が極大粒に分類される品種。「十育143号」は現在の「とよみ大納言」

